

あまちゃん

NHK朝の連続テレビ小説を知っていますか。2013年度（平成25年度）に放送された『あまちゃん』は知っていますか。皆さんは、まだ小さかったので、覚えていないかもしれませんが、テーマ音楽を聞けば、きっとわかると思います。

そのオープニングテーマをつくったのは福島の方です。大友良英（おおともよしひで）さんと言います。2019年のNHK大河ドラマ『いだてん』の音楽も担当しています。

先日、大友さんの講演を聞く機会がありました。お話の中から、皆さんに伝えたいことがあります。

大友さんは、小学校3年生から高校3年生までを福島市で過ごしました。10代の思春期を福島市で過ごし成長したことになります。小学校3年生のときに福島市の学校に転校してきました。最初の音楽の時間に歌を歌ったところ、みんなに笑われたそうです。それ以来、ずっと音楽の授業が嫌で嫌で仕方がなかったそうです。そんな大友さんが音楽の道に進むのですから、人の人生とはわからないものです。

大友さんは、東京の大学に進みました。実家は福島にありますが、盆暮れに帰るだけの場所であり、福島に対して特別な思いはなかったそうです。2011年（平成23年）に東日本大震災がありました。大友さんが、仕事でドイツにいたときに、原発、原子力発電所反対のデモがありました。そのプラカードには「No More Fukushima」とありました。そのとき大友さんは「原発はノーモアだけど、福島はノーモアじゃねえぞ」と思ったそうです。自分の中に“福島”があることに気がついたそうです。自分にとっての福島の大きさを知ったそうです。そこから、いてもたってもいられず様々な活動を始めます。 * No More 二度と…しない

大友さんは、福島の人々の“誇り”が傷つけられたと思いました。誇りをもつとは、どういうことだろうと考えました。自分たちで何かをやったという実感が誇りにつながると考えました。また、長く続けるにはどうしたらよいかと考えました。一人でやらないことだと、大友さんは言います。みんなと仲間と一緒にやることだと言います。

大友さんは、「プロジェクト FUKUSHIMA」を立ち上げました。福島市の夏祭りである「福島わらじまつり」の改革にも取り組んでいます。祭りが市民にとって何であるかを根本的に考えたうえで、自分たちの手で祭りをつくっていくことが重要だと大友さんは言います。「10年先、20年先を見据えて100年先も続くような根本的な改革を考えるのであれば意味がない。そういうつもりで引き受けました」と言っています。原発を超える文化をつくりたい。わらじ祭りを世界的なものにしたいという思いがあるそうです。

また、音楽については、いろいろな人、変な人、足を引っ張るような人がいたほうが、音楽が豊かになると大友さんは言います。これは、音楽以外のことにも言えることだと私は考えます。

皆さんにとっての“福島”の大きさは、福島を離れたときにわかることかもしれませんが。10代の今を生きている皆さんは、人生の中でも大切な時期を、ここ福島で過ごしているわけです。大友さんは、夢をもったり、大きなことをしたりしなくてもいいから、いい大人になることが誇りにつながると言います。皆さんの人生は、間違いなく“福島”とつながっています。